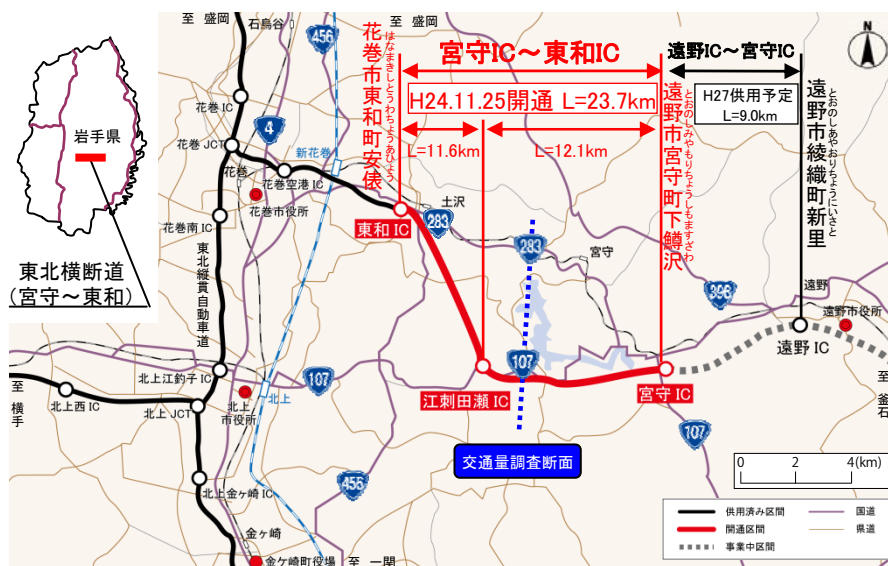


復興(支援)道路として初めて開通し、被災地の復興や産業を支援

- 『復興道路・復興支援道路として初めて開通』
- ・ガレキ運搬、復興住宅建設など復興関連の様々な輸送・移動を支援
- ・現道の急カーブ・急勾配箇所を回避できるようになり、定時性・安全性が向上。内陸と沿岸を結ぶ信頼性の高い物流ルートとして機能



▼現道の道路構造(R107号・R283号)

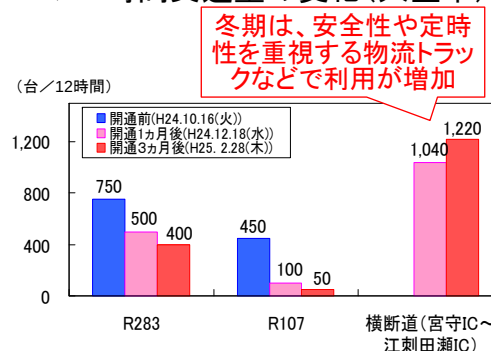


▼冬期の現道(R107号)



現道には90度カーブ、凍結の恐れ

▼12時間交通量の変化(大型車)



冬期は、安全性や定時性を重視する物流トラックなどで利用が増加



横断道は冬期でも時間が読みやすい

復興関連事業者の利用



大槌から盛岡へガレキを輸送(盛岡から鉄道で県外へ)

内陸部から復興住宅建設資材を搬入

《復興住宅建設》

- ・復興住宅建設資材を、岩手県・宮城県の内陸部から搬入。資材の到着の遅れは工事の進捗に影響するため、**遅延しにくい横断道及び東北縦貫道**を利用している。
- ・現場作業員のうち1/3は花巻方面からの通勤者。**開通により冬期の通勤は安心感が大きい**と感じている。

(復興住宅建設事業者ヒアリングより)

《ガレキ運搬》

- ・大槌町の**震災ガレキ**を盛岡貨物ターミナルへ運搬(20フィートコンテナ8台が1日に2往復)
- ・これまでは国道396号を輸送ルートとしていたが、**冬期は天候や路面状況を考慮し、安全性確保のため開通区間**を利用して、盛岡まで輸送している。

(ガレキ運搬事業者ヒアリングより)

沿線地域の製造業の利用

- ・釜石市から北上市や金ヶ崎町の**産業集積地**へ、一月に約300台以上の大型トレーラーで製品を運搬。急カーブ・急勾配区間を回避でき、所要時間は**約10分短縮**。
- ・指定納品時間の厳守のため開通前の冬期は通常期の30分前に工場を出発していたが、開通後は時間が読めるようになり、**通常期と同じ時間の出発が可能**に。

(釜石市製造業者ヒアリングより)